

科目名: <b>教養としての音楽史入門</b>		科目コード	GA27
科目主査: <b>大瀧 恵</b>		単位	2
担当講師: <b>大瀧 恵</b>		配当年次	1
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	カメラ・マイクの必要性: <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input checked="" type="checkbox"/> 不要
<p>音楽は一つの時代も社会と関わらなから生み出され、伝承されてきました。本科目では、クラシック音楽のルーツや歴史(西洋音楽史)を5つの時代に分け、作曲家たちが生きた時代とその生涯について、彼らの作品を通して理解と親しみを深めていきます。さらに各作品の中で表現されている作曲家の思想・芸術感や作曲家たちの発想力に注目・考察することにより、創造的な思考力を高めることを目標とします。</p>			
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:	
履修の前提となる知識 その他特記事項	<p>初学者向けのスクーリングですが、事前学習は重要です。テキストを熟読し、どこに何が記述されているかを整理しておきましょう。またテキストの付属CDを事前に聴き、好みの楽曲に対する感想などを準備して授業に臨んでください。</p>		
テキスト	『大人の音楽史入門』長沼 由美 他, ヤマハミュージックメディア, 2007年		
この科目の到達目標	<p>①音楽史の基本的な流れを押さえ、各々の時代はどのような音楽家および作曲家が活躍し、いかなる作品が作曲されたのか理解できる。 ②各作曲家の作品が創られた時代背景を踏まえた上で、テキスト付属のCDを積極的に活用しながら、曲ごとの音楽的特徴と作曲家が活躍した時代の音楽様式を理解することができる。</p>		
成績評価の方法	<p>出席状況・課題への取り組み・最終試験を評価対象とします。 休み時間後の遅刻は減点の対象とします。</p>		
事後学習	<p>スクーリングで得た知識や気づきをもとに、好きな作品・作曲家・演奏家を増やすことができるよう鑑賞を重ねてください。好きな作曲家・作品・演奏家に出会うことで、音楽史をより詳しく知りたいと思うようになり、その知識を活かせる場面もより増えるでしょう。</p>		
事後学習の参考文献	<p>『西洋音楽史100エピソード』, 久保田 慶一, 教育芸術社, 2012年 『CD&amp;DVD51で語る西洋音楽史』, 岡田 暁生, 新書館, 2008年</p>		
スクーリング受講時に用意するもの			
<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具			